

屋内消火栓操法実施要領

1 目的

この要領は、自衛消防隊員が消防操法技術訓練会において行う操法の要領を示したもので、迅速・的確な消防操法要領を習得することを目的とする。

2 操法の種類

屋内消火栓操法（正面設置による折りたたみホース1線2本延長操法）とする。

3 人員

この操法における操作人員は、指揮者以下4人とする。

4 服装

事業所で定められた服装、ヘルメット、編上靴等訓練実施上支障のないものとする。

5 使用機器

- (1) 屋内消火栓
各署配置の訓練用屋内消火栓箱（起動用押しボタン付）とする。
- (2) ホース
長さ15メートル以上、直径40ミリメートルのものとする。
- (3) 火点
火点は標的をもって示す。

6 操法の基本事項

- (1) 挙手注目の敬礼及び「放水始め」「放水止め」の伝達時の手の動作は、敬礼者又は伝達者が受礼者又は受達者より先に手を上げ、受礼者又は受達者より後で手を下げること。
- (2) ㊦の「操作始め」の号令から、操作が終了し、最後の番員が集合線に整列するまでの足の動作については、次の場合を除き、足を引きつけない。
 - ア 操法実施要領に特に定めがある場合
 - イ 基本の姿勢（準ずる姿勢の場合含む）となる場合

- (3) 号令、復唱、合図の呼唱、開始報告、終了報告及び想定を間違えた場合は、その号令等続く行動（他の隊員等の行動含む）を開始する前に訂正すること。
- (4) 送水圧力は、消防車両から 0.3MPa で送水する。
- (5) 強風等で標的が放水開始前に倒れた場合、指揮者審査員が有効放水を判断する。
- (6) 収納時、巻き終わったホースの一部が、ホース幅の 2 倍以上はみ出した場合、ホースの収納不適となる。また、修正は膝、足で行ってはならない。
- (7) 資機材は、操法実施要領に特に定めのある場合を除き、またがないこと。なお、延長したホースをまたぐ場合は、結合部又は接地部をまたぐこと。

7 資機材搬入

(1) 待機

資機材搬送要員 8 人以内（選手 4 人、補員 1 人、自衛消防隊担当職員 2 人以内、プラカード要員 1 人）は、準備ライン（起点ラインから後方 6 メートルの位置）で資機材を整頓し、その後方に横隊で整列し、折り膝の姿勢で待機する。

(2) 資機材搬入

ア 指揮者

進行係員の「資機材搬入開始」の指示により、各隊員に「資機材搬入開始」と号令し、資機材を搬送し所定の位置に置き、「待機線へ集まれ」と号令する。

イ 各隊員

Ⓢの「資機材搬入開始」の号令により、資機材を搬送し所定の位置に置く。

実施項目	実施要領
待機	<p>指揮者</p> <p>「待機線へ集まれ」の号令後、自らも待機線上の①の右側 1.5メートルの位置に至り、火点の方を向いて姿勢を正し、頭を左に向けて、隊員とともに自発的整頓を行い、①が頭を正面に復すと同時に、頭を正面に復して、隊員とともに一斉に整列休めの姿勢となる。</p> <p>1番員</p> <p>㊦の「待機線へ集まれ」の号令で、待機線上の①の位置に至り、火点の方を向いて姿勢を正し、自発的整頓の基準員となって、頭を左に向けて他の隊員の整頓の完了を確認して頭を正面に復し、他の隊員とともに一斉に整列休めの姿勢となる。</p> <p>2番員</p> <p>㊦の「待機線へ集まれ」の号令で、待機線上の①の左側に至り、火点の方を向いて姿勢を正し、右手を腰にとり右肘を側方に張り、頭を右に向け、基準員①に自発的整頓を行い、①が頭を正面に復すと同時に右手を下ろし、肘を伸ばし頭を正面に復して基本の姿勢となり、他の隊員とともに一斉に整列休めの姿勢となる。</p> <p>3番員</p> <p>㊦の「待機線へ集まれ」の号令で、待機線上の②の左側に至り、火点の方を向いて姿勢を正し、右手を腰にとり右肘を側方に張り、頭を右に向け、②に自発的整頓を行い、①が頭を正面に復すと同時に右手を下ろし、肘を伸ばし頭を正面に復して基本の姿勢となり、他の隊員とともに一斉に整列休めの姿勢となる。</p>
集 合	<p>指揮者</p> <p>審査員の「行動開始」の合図（旗と口頭）で基本の姿勢をとり、火点の方に向かって約7メートル前進し、集合指揮位置に至り、左に回りこみ②の方を向き停止したのち基本の姿勢となり、「集まれ」と号令し、隊員の集合状況を監視する。</p>

集 合	<p>1 番員</p> <p>㊦の「集まれ」の号令で待機位置で、他の隊員と一齐に基本の姿勢となった後、集合線へ移動し、火点に向かって停止し、自発的整頓の基準員となって頭を左に向け、隊員の整頓の完了を確認して、頭を正面に復し基本の姿勢となる。</p> <p>2 番員</p> <p>㊦の「集まれ」の号令で待機位置で、他の隊員と一齐に基本の姿勢となった後、集合線へ移動し、火点に向かって停止し、右手を腰にとり、右肘を側方に張り頭を右に向け、基準員の①に自発的整頓を行い、①が頭を正面に復すと同時に右手を下ろし、肘を伸ばし頭を正面に復して基本の姿勢となる。</p> <p>3 番員</p> <p>㊦の「集まれ」の号令で待機位置で、他の隊員と一齐に基本の姿勢となった後、集合線へ移動し、火点に向かって停止し、右手を腰にとり、右肘を側方に張り頭を右に向け、②に自発的整頓を行い、①が頭を正面に復すと同時に右手を下ろし、肘を伸ばし頭を正面に復して基本の姿勢となる。</p>
点 呼	<p>指揮者</p> <p>隊員の整頓終了後、「番号」と号令する。</p> <p>各隊員</p> <p>㊦の番号の号令により①から順次番号を呼称する。</p>
開 始 報 告	<p>指揮者</p> <p>点呼終了後、後ろ向きをして（足を引きつける）発進し、受礼者の前方5メートルの位置に至り停止する。</p> <p>受礼者に相対し挙手注目の敬礼を行い「〇〇自衛消防隊、只今から屋内消火栓操法を開始します。」と報告し、挙手注目の敬礼を行う。</p> <p>敬礼後、後ろ向きをして（足を引きつける）発進し、集合指揮位置に至り各隊員に相対して停止する。</p> <p>各隊員</p> <p>基本の姿勢で待機する。</p>

<p>想定付与</p>	<p>指揮者</p> <p>「想定を示す。火点前方標的、屋内消火栓操法」の想定を付与する。</p> <p>各隊員</p> <p>基本の姿勢で㊦の想定を受ける。</p>
<p>操作開始</p>	<p>指揮者</p> <p>集合指揮位置で「操作始め」と号令し、操作員が消火栓に向かって発進したのを確認後、半ば右向けをして消火栓の方を向き、姿勢を正して操作員の操作状況を監視する。</p> <p>1番員</p> <p>㊦の「操作始め」の号令に「よし」と合図し、深い左向けをして消火栓の方を向き、③に続いて発進、消火栓に至り、扉が開かれたら左足を踏み出して停止し、③の協力を得て、両手で第2ホース及び筒先をホース掛けから外し、直ちに筒先を右手に持ち、筒先を下にして第2結合部側が上になるように第2ホースを右脇に抱えこみ、右足を軸にして左に回転し、火点の方を向き、②の操作の支障としない位置で待機する。</p> <p>2番員</p> <p>㊦の「操作始め」の号令に「よし」と合図し、深い左向けをし消火栓の方を向き、①に続いて発進、①の操作の支障としない位置に至り、①が筒先及び第2ホースを取り出した後、消火栓に移動して消火栓に向かって左足を踏み出して停止し、③の協力を得て両手で第1ホースをホース掛けから外し、直ちに余裕ホース1メートルを残し、第2結合部を下側にして第1ホースを右脇に抱えこみ、右足を軸にして左に回転し、火点の方を向く。</p> <p>3番員</p> <p>㊦の「操作始め」の号令に「よし」と合図し、深い左向けをして消火栓の方を向き、①に先行して発進、消火栓に至り停止し、扉を完全に開き、体側で扉を押さえ、①の筒先及び第2ホース、②の第1ホースの取り出しを協力した後、延長ホースの右側で第1結合部側の足を1歩引いた姿勢で火点の方を向き、②の残した1メートルの余裕ホースを腰部で確保し、左手で延長側ホースを握り、引っぱり防止態勢をとり①、②のホース延長準備完了を確認後「よし」と合図する。</p>

<p>ホース延長</p>	<p>指揮者</p> <p>③の余裕ホース確保の「よし」の合図で、深い右向けをして火点の方を向き、①に先行して消火栓から 29 メートル前進して左向け止まれの要領で停止、姿勢を正して操作状況を監視する。</p> <p>1 番員</p> <p>③の余裕ホース確保の「よし」の合図で、火点に向かって筒先及びホースを右脇に抱えたまま前進し、②の第 1 ホース延長終了の「よし」の合図に、ホースを延長しながら「放水始め」と合図する。</p> <p>2 番員</p> <p>③の余裕ホース確保の「よし」の合図で、①の後に続き第 1 ホースを延長しながら前進し、第 1 ホースの延長終了直前に、①に「よし」と合図し、第 2 結合部より 1 歩火点側に至り火点に向かって停止し、姿勢を正す。</p> <p>3 番員</p> <p>①、②のホース延長によるホースの引っばりを防止し、右手で起動ボタンを押し、送水準備を整え、第 2 結合部が落下したらホースから手を離し、延長ホースの左側③の位置に移動し、火点に向かって姿勢を正す。</p>
<p>放水の開始</p>	<p>指揮者</p> <p>①の注水部署の進入状況を監視し、①が第 2 ホース延長終了の手前 3 メートルに来たら「止まれ」と号令し、①が基本注水姿勢をとったら、右向けをして①の右ななめ前方 3 メートルの位置に至り、火点に向かって停止、姿勢を正して火点を注視する。</p> <p>1 番員</p> <p>「放水始め」の合図後、第 2 ホースを延長しながら火点に向かって前進し、㊦の「止まれ」の号令で、さらに前進し㊦の前 2 メートルの注水部署に至り、左足を踏み出して火点に向かって停止し、左手をノズル部にそえ、右手を筒先の元金具部に持ち替え、基本注水姿勢をとり、②の「伝達終了」の合図に「よし」と合図し、注水続ける。</p> <p>2 番員</p> <p>火点に向かって姿勢を正し、①の「放水始め」の合図を、「放水始め」と復唱したのち、後ろ向きをして消火栓の方を向き、延長ホースにそ</p>

<p>放水の開始</p>	<p>って左側を前進し、③の前方2メートルの位置に至り、③に正対して停止、姿勢を正して右手を垂直に上げてから「放水始め」と伝達する。③が復唱して手を下ろしたのを確認後右手を下ろし、後ろ向きをして火点の方を向き、ホースを点検しながら第1ホースの左側を第2結合部に向かって前進、第1ホースの中央部で右側に移行し、さらに火点に向かって前進、①の反対側2歩後方の注水補助位置に至り停止する。姿勢を正して「伝達終了」と合図し、右足を1歩前に踏み出し、前傾した姿勢で両手でホースを持ち、注水補助を行う。</p> <p>3番員</p> <p>第1結合部の左側1メートルの位置で、②の「放水始め」の伝達に右手を垂直に上げてから「放水始め」と復唱して右手を下ろした後、右向けをすると同時に左足を第1結合部に向かって踏み出し、右手で開閉弁を開き、送水操作を行った後、左に向きを変えると同時に、左足を元に戻して右足を引きつけて火点の方を向き、姿勢を正す。</p>
<p>放水中止</p>	<p>指揮者</p> <p>審査員の合図により深い左向けをして①の方を向き、姿勢を正して右手を横水平に上げ、「放水止め」と号令、①の復唱を確認し、②の「よし」の合図で右手を下ろした後、深い右向けをして火点の方を向き姿勢を正して前方を注視する。</p> <p>1番員</p> <p>④の「放水止め」の号令で、基本注水姿勢のまま「放水止め」と復唱し、注水姿勢をつづけて、②が③に放水中止の伝達をして後方に戻り、「伝達終了」の合図で、ノズル部を右手に持ち替え、左足を右足に引きつけると同時に「よし」と合図し、筒先を右体側に下げ、火点に向かって姿勢を正す。</p> <p>2番員</p> <p>①の「放水止め」の復唱で「よし」と合図してホースを離し、左回転をして消火栓の方を向き、延長ホースにそって右側を消火栓に向かって前進し、第1ホース中央部で左側に移行し、さらに第1ホースにそって、消火栓に向かって前進、③の前2メートルの位置に至り、③に正対して停止、姿勢を正して右手を横水平に上げて「放水止め」と伝達する。③が復唱して右手を下ろしたのを確認後、右手を下ろし後</p>

<p>放水中止</p>	<p>ろ向きをして火点の方を向き、第1ホースにそって左側を火点に向かって前進、第1ホース中央部で右側に移行し、さらに延長ホースにそって右側を前進、①の反対側2歩後方の注水補助位置に至り停止し、火点に向かって姿勢を正して「伝達終了」と合図する。</p> <p>3番員</p> <p>第1結合部の左側1メートルの位置で、②の「放水止め」の伝達を、右手を横水平に上げて「放水止め」と受達して右手を下ろした後、右向けをすると同時に左足を第1結合部に向かって踏み出し、右手で開閉弁を閉じ、送水停止操作を行った後、左に向きを変えると同時に、左足を元に戻して右足を引きつけて火点の方を向き、姿勢を正す。</p>
<p>収 納(1)</p>	<p>指揮者</p> <p>②の「伝達終了」及び①の「よし」を確認後、直ちに後ろ向きをして消火栓の方を向き、姿勢を正して頭上で手首を交差させ、「おさめ」と号令し、隊員の「よし」の合図で手をおろした後、操作状況を監視しながら、①のところに移動し、右向け止まれの要領で左足を踏み出して停止し、元金具が前になるように左手で筒先中央部を持って受け取る。筒先受け取り後、左に向きを変え、消火栓に向かって延長ホースにそって右側を前進し、消火栓の前に至り、両足を開いて消火栓に正対して停止する。消火栓箱の前に筒先を置いた後、左に向きを変えて集合指揮位置に戻り、左に回り込み操作員の方に向かって停止、姿勢を正して操作状況を監視する。</p> <p>1番員</p> <p>④の「おさめ」の号令で「よし」と合図して、右足でホースをまたぐと同時に左に向きを変えて左足で結合部近くのホースを踏み、筒先を右脇にはさみ離脱環を引き、結合を離脱し、左足をホースの右側に踏み変え、左手でノズル部を持って指揮者に手渡す。筒先を指揮者に手渡した後、消火栓の方を向き、第2ホースのおす金具を持って、②と協力してホースを直伸し、第2ホースをおす金具からめす金具に向かってうず巻きにし、左足をホースの右側に踏み出して停止、めす金具を軸にして左足の内側で回転し、めす金具を消火栓の方向で下に向けてホースを立てる。</p>

<p>収 納(1)</p>	<p>2番員</p> <p>⑥の「おさめ」の号令で「よし」と合図し、後ろ向きをして消火栓の方を向き、第2ホースに沿って右側を前進し、第2結合部に至り、左足を踏みだして右向け止まれの要領で結合部に正対して停止する。結合部近くの第1ホースを左足で踏み、両手で離脱環を引いて第2結合部を離脱しておす金具をその場に置き、左足を第2ホースのめす金具近くの左側に踏み変えて、第2ホースのめす金具を持ち、①と協力して第2ホースを直伸し、めす金具をその場に置き、左足を第1ホースのおす金具近くの右側に踏み変え、消火栓の方を向く。次いで、第1ホースのおす金具を持って③と協力をして第1ホースを直伸した後、第1ホースをおす金具からめす金具に向かってうず巻きにし、左足をホースの右側に踏み出して停止、めす金具を軸にして左足の内側で回転し、めす金具を消火栓の方向で下に向けてホースを立てる。</p> <p>3番員</p> <p>⑥の「おさめ」の号令で「よし」と合図し、右向けをすると同時に左足を第1結合部に向かって踏み出し、両手で離脱環を引いて第1結合部を離脱し、めす金具を持って火点の方を向き、②と協力してホースを直伸してめす金具をその場に置き、消火栓箱に正対し、消火栓箱の扉を閉じた後、左に向きを変え集合線に戻る。</p>
<p>収 納(2)</p>	<p>指揮者</p> <p>①が、第2ホースを右脇にかかえ消火栓に向かって発進したら、左向けをして集合線の方を向いて姿勢を正す。</p> <p>1番員</p> <p>第2ホースのめす金具を左手で、右手で外側から下を持って右脇に抱え込み、左手を離し、消火栓に向かって前進し、消火栓の前に至り、右足を消火栓に向けて踏み出し停止し、左手をめす金具に添え消火栓の前に置いた後、左に向きを変え集合線に戻る。</p> <p>2番員</p> <p>第1ホースのめす金具を左手で、右手で外側から下を持って右脇に抱え込み、左手を離し、消火栓に向かって前進し、消火栓の前に至り右足を消火栓に向けて踏み出し停止し、左手をめす金具に添え消火栓の前に置いた後、集合線の方を向き、集合線に戻る。</p>

	<p>3番員 集合線で待機する。</p>
点検報告	<p>指揮者 集合指揮位置で、隊員の集合状況を監視し、隊員の自発的整頓が終了したら「点検報告」と号令し、①から順次報告を受けそれぞれ「よし」と合図する。</p> <p>各番員 順次器具を収納した隊員は、操作開始前の集合線に戻り、回り込みで指揮者に向かって停止した後、整頓して（先に戻っている隊員は、順次隊員が戻った時は、基本の姿勢をとり、必要に応じて右手を腰にとり肘を張って、頭を左、右に向けて整頓に協力した後）整列休めの姿勢で待機し、最後の隊員が戻ったら、操作開始前の集合線での整頓要領で①を基準員として自発的整頓を行い、㊦の「点検報告」の号令で、①から順次「○番員異常なし」と報告する。</p>
報告・解散	<p>指揮者 集合指揮位置において後ろ向きをして（足を引き付ける）発進し、受礼者の前方5メートルの位置に至り停止する。</p> <p>受礼者に相対して挙手注目の敬礼を行い、「〇〇自衛消防隊、屋内消火栓操法終了しました。」と報告する。</p> <p>挙手注目の敬礼を行った後、後ろ向きになり（足を引き付ける）発進し、集合指揮位置に至り停止、各隊員に相対して「わかれ」と号令し、各隊員の挙手注目の敬礼に対し、答礼し解散する。</p> <p>各番員 ㊦の「わかれ」の号令で一斉に挙手注目の敬礼を行い、㊦の答礼後、手をおろし、姿勢を正してから解散する。</p>

屋内消火栓操法実施要領の補足説明

1 服装

- (1) 靴については、運動靴も可とする。
- (2) 手袋は必ず着用する。(手首から先の全部を被覆するものであれば、色及び種類は自由とする。)

2 使用機器

- (1) 屋内消火栓箱は正面設置で実施する。配置位置は、訓練会事務局で定める。
- (2) 標的は、起点ラインから 40 メートルのコース中央に設置する。

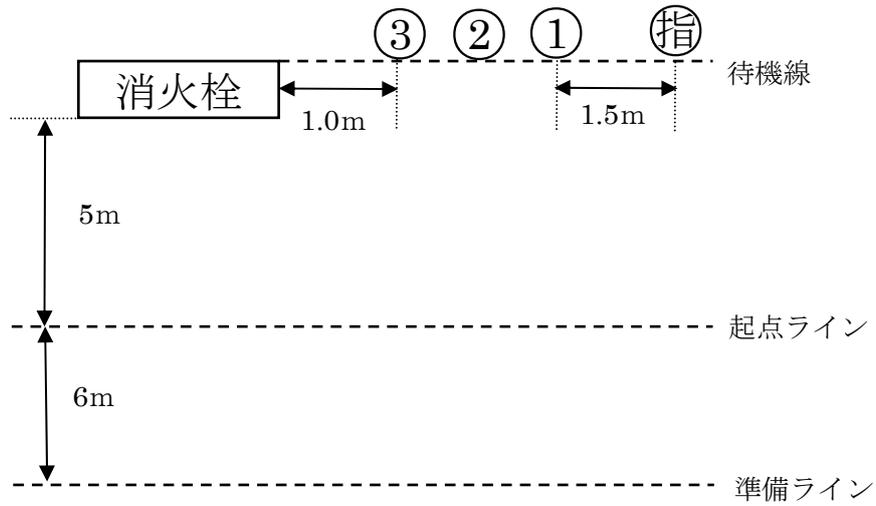
3 資機材搬入

- (1) ホース及び筒先は、ホース掛け全部に掛けて置くこと。
なお、余ったホースを底に置くこと及び櫛のとばしはしてはならない。
- (2) コース内での開閉弁の開閉点検は、すでに加圧送水されているため絶対に行わないこと。

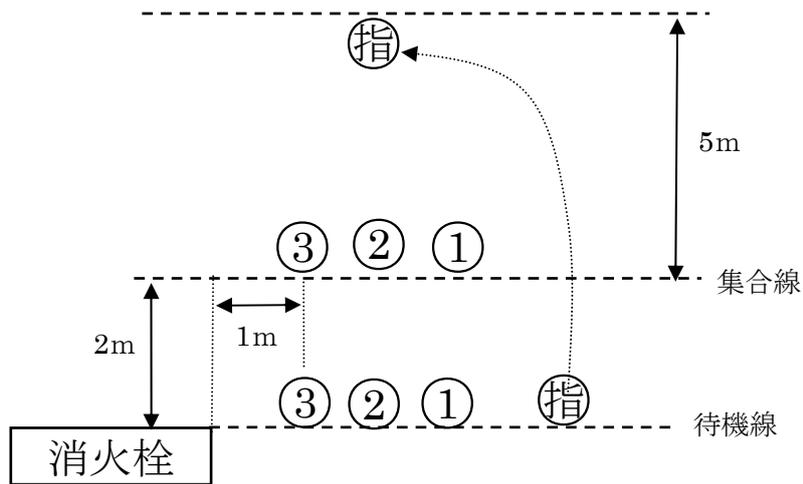
4 実施要領

- (1) 指揮者
 - ア 開始報告
 - (ア) 受礼者前方 5 メートルの開始及び終了報告位置は、標示する。
 - (イ) 開始及び終了報告位置への移動は、目標に向かって最短距離となるように方向を修正し、最短距離の経路を通るものとする。
 - イ 操作開始
指揮者審査員の「操法開始」の合図（口頭及び赤旗）で開始する。
 - ウ 放水中止
指揮者審査員は、標的が 90 度倒れて、②のホース補助を確認した時点で、「放水中止」の合図（口頭及び赤旗）をする。
- (2) 1 番員
 - ア 待機
待機線、集合線の位置及び距離の確保は①が基準となる。
 - イ ホース延長
搬送しているホースを一度に半分以上落とさないように延長する。
- (3) 2 番員
 - ア ホース延長
搬送しているホースを一度に 3 分の 1 以上落とさないように延長する。
 - イ 放水の開始
③に「放水始め」の伝達後、火点に向かう時はホースの点検、修正はしない（省略）ものとする。
- (4) 3 番員
 - ア 放水の開始
開閉弁の開閉操作は、右手又は右手に左手をそえて開閉弁を操作する。
 - イ 収納(1)
起動ボタンは復旧しないものとする。
- (5) 共通
 - ア 待機
待機線及び集合線における整頓は、靴のかかと最後部が一線上にあること。
なお、基準番員のかかと最後部から 5 センチメートル以上のずれは集合要領不適とみなす。

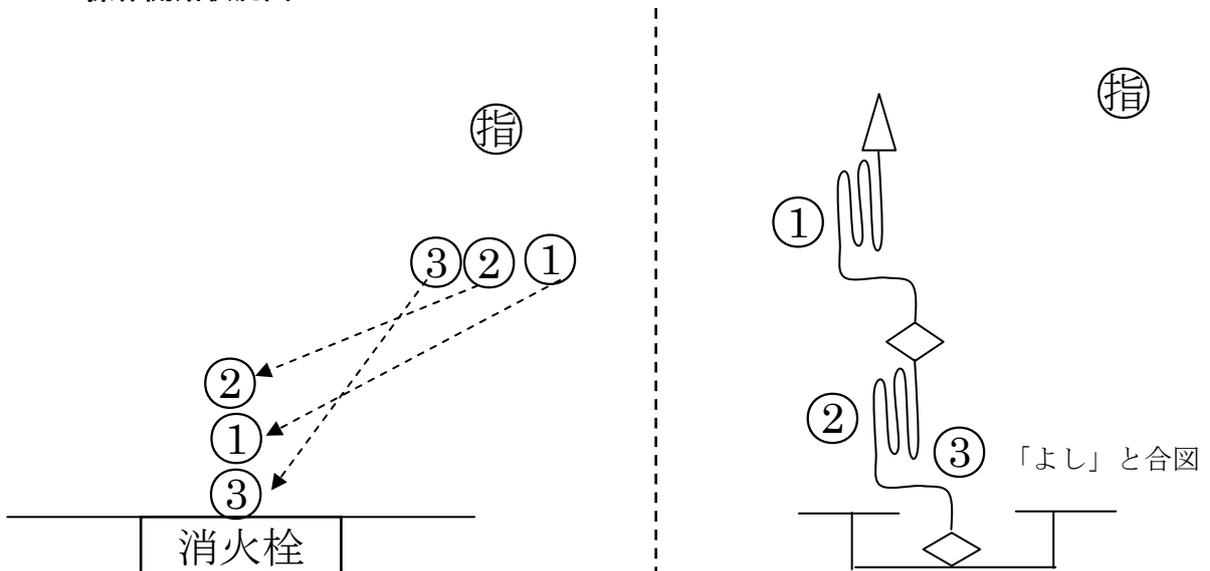
1 待機位置状況図



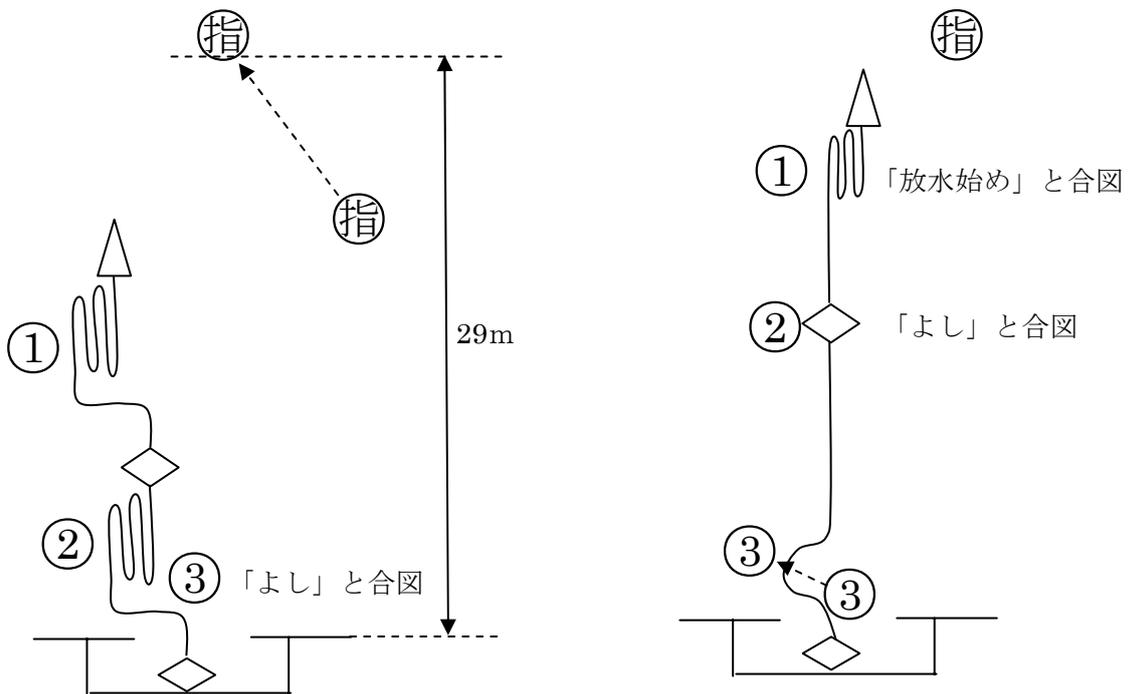
2 集合指揮位置状況図



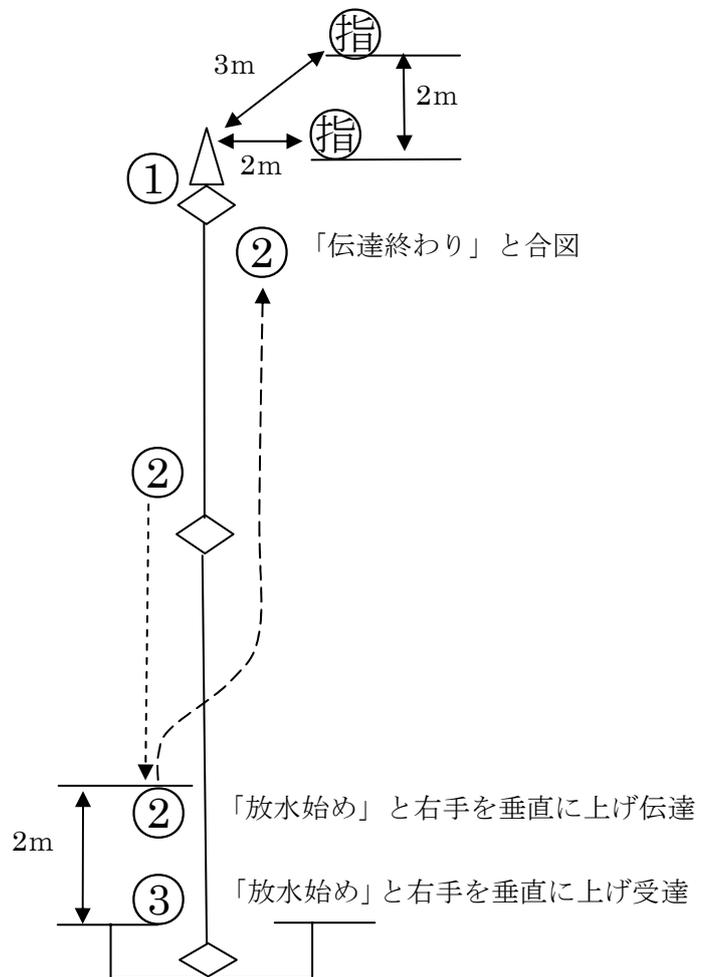
3 操作開始状況図



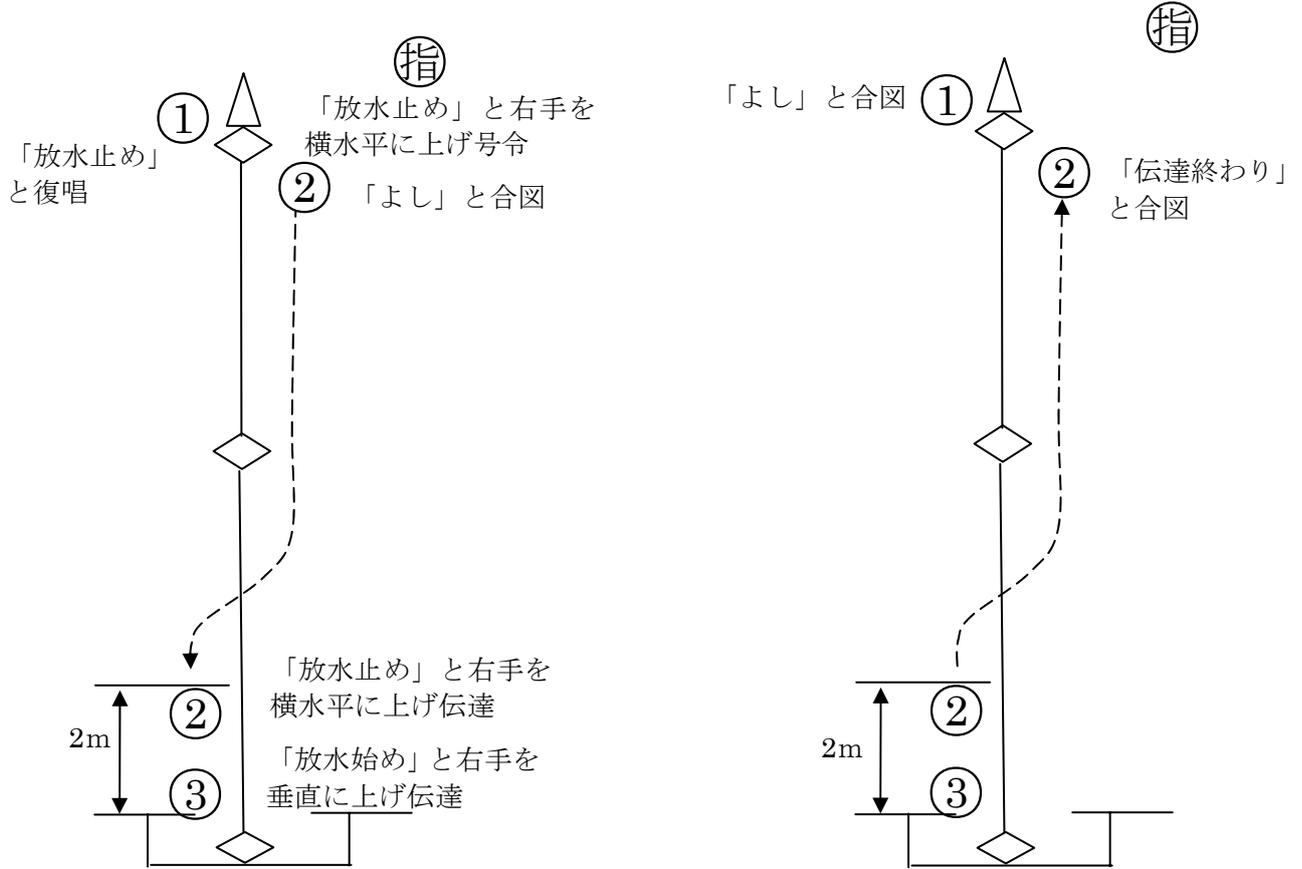
4 ホース延長状況図



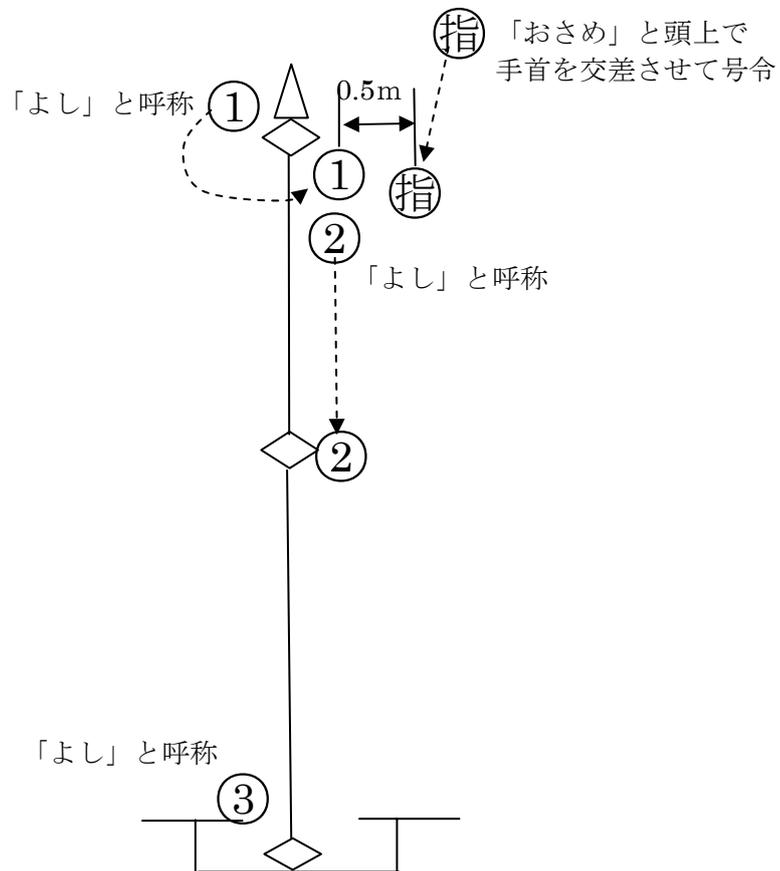
5 放水開始状況図

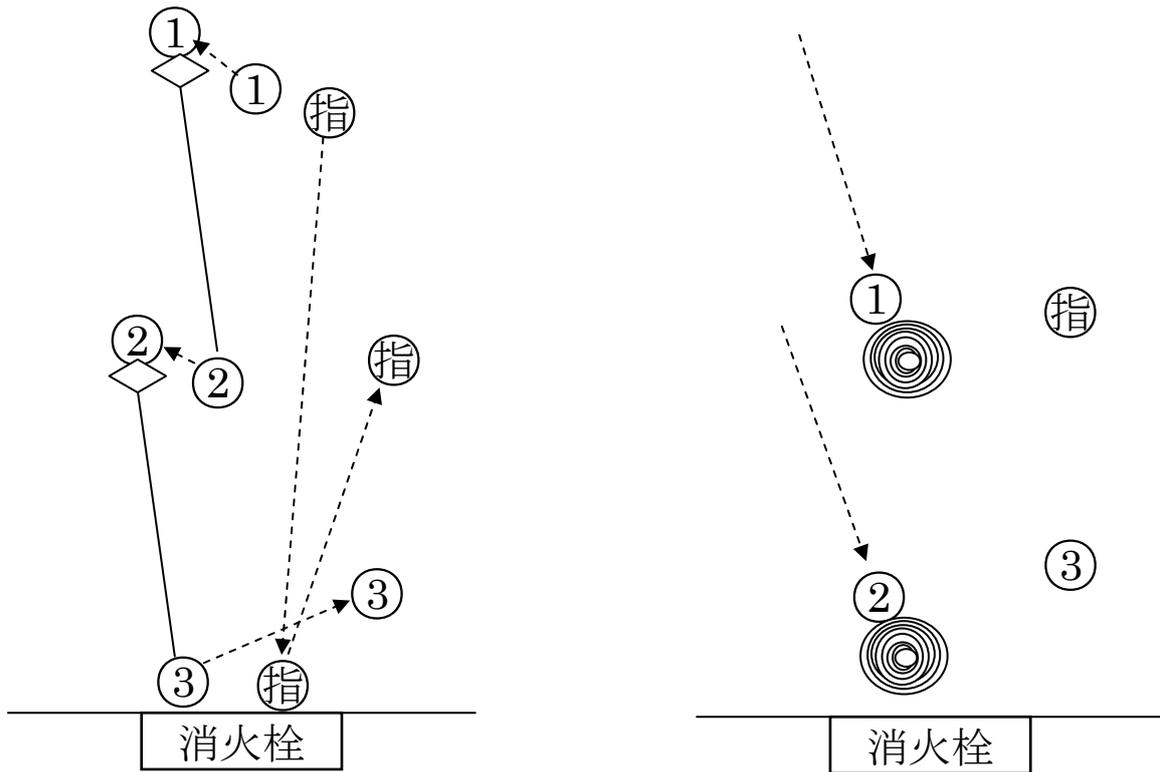


6 放水中止状況図

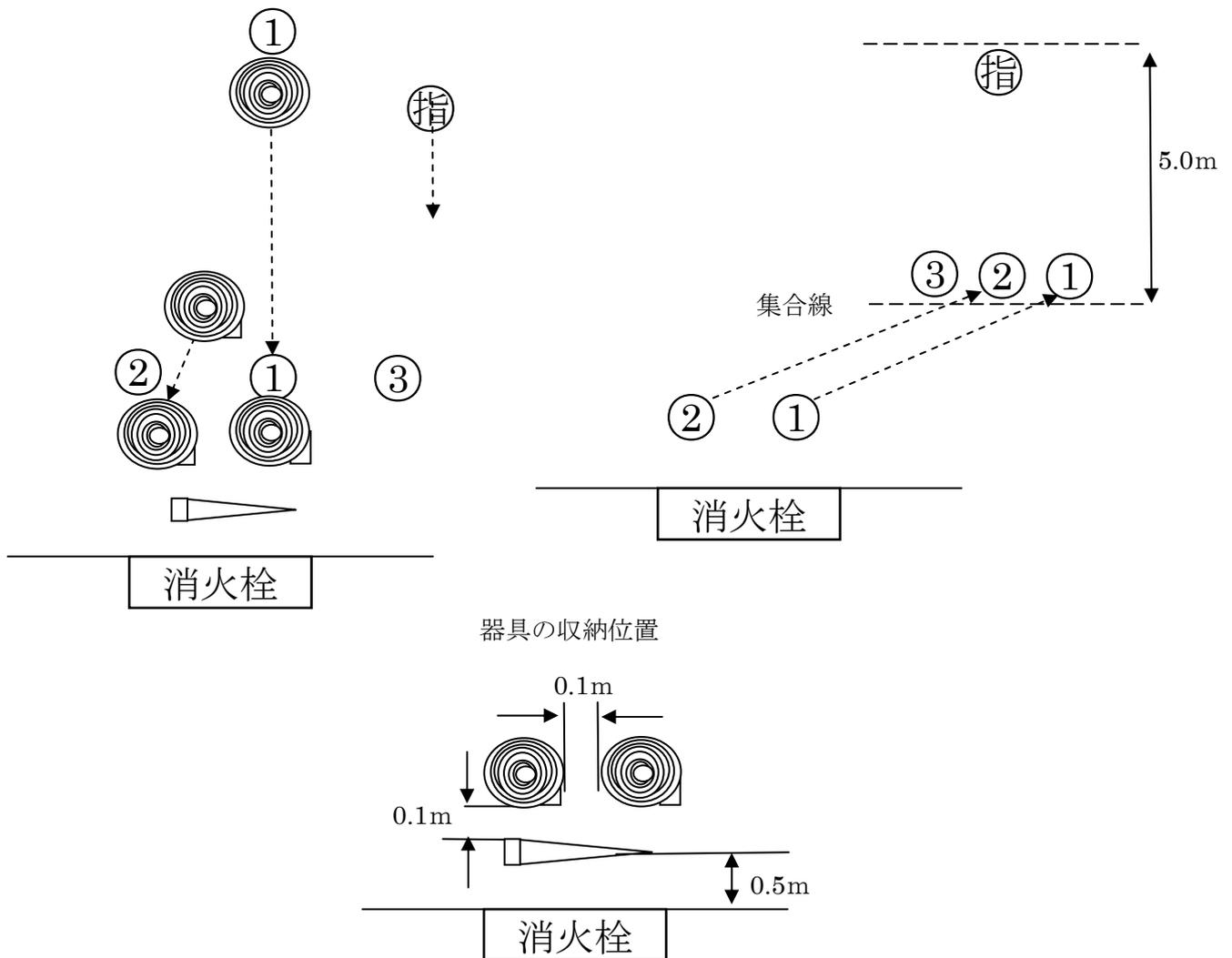


7 収納(1)状況図





8 収納(2)状況図



9 点検報告状況図

